

企業名： 荏原実業

レポート名： 荏原実業レポート 2025

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか（将来）

荏原実業の統合報告書 2025 を通読し、荏原実業が目指す将来の姿は比較的明確に理解することができた。長期ビジョンとして「トータル環境ソリューションカンパニー」を掲げており、従来の環境関連機器の販売や施工を中心とした事業から、顧客や社会が抱える環境課題を総合的に解決する企業への進化を目指している。

その実現に向けて、新中期経営計画「EJ2027」では「既存事業の強化」「新領域の探索」「経営基盤の充実」の3つを基本方針として掲げている。特に、上下水道インフラの更新需要や脱炭素社会への移行といった社会課題を成長機会として捉え、環境技術やエンジニアリング力を活用して持続可能な社会の実現に貢献しようとしている点が印象的であった。

また、将来像を理念として示すだけでなく、中期経営計画や投資方針、人材戦略などと結び付けて説明しているため、どのような手段でその姿を実現しようとしているのかも理解しやすかった。以上より、荏原実業が将来的に環境分野における総合ソリューション企業として成長することを目指していることが明確に伝わる内容であった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

荏原実業の統合報告書を通じて、同社の競争優位性についても理解することができた。荏原実業の強みは、環境関連設備を扱う専門商社としての機能に加え、自社製品の開発やエンジニアリング機能を併せ持っている点にある。

特に上下水道分野では、長年にわたり官公庁や自治体との取引実績を積み重ねており、安定した顧客基盤を有している。上下水道インフラは社会に不可欠な設備であり、高い信頼性や技術力が求められるため、新規参入が容易ではない。このことは荏原実業にとって大きな競争優位性であると考えられる。

また、荏原実業はオゾン関連技術をはじめとする自社開発製品を保有しており、単に他社製品を販売するだけでなく、独自の付加価値を提供している。さらに、製品の販売にとどまらず、設計・施工・メンテナンスまで一貫して対応できる体制を構築しているため、

顧客との長期的な関係を築きやすい点も強みである。

以上より、荏原実業の競争優位性は、環境分野における専門性、長年培われた顧客基盤、そして商社・メーカー・エンジニアリング企業としての複合的な機能にあると理解することができた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

荏原実業の競争優位性には一定の持続性があると考えられる。特に、荏原実業が強みとする上下水道関連事業は、老朽化した社会インフラの更新需要を背景として今後も安定した需要が見込まれる。また、環境規制の強化や脱炭素化の進展によって、環境関連技術へのニーズはさらに高まると考えられる。

加えて、同社は自社製品の開発や技術力の向上に継続的に取り組んでおり、競争優位性を維持するための投資を行っていることが報告書から読み取れた。こうした技術蓄積や顧客との長期的な信頼関係は、短期間で模倣することが難しい資産であると考えられる。

一方で、環境関連市場には大手企業も参入しており、将来的な競争激化の可能性は存在する。そのため、今後も技術開発や新たな事業領域への展開を継続できるかが、競争優位性の持続性を左右する重要な要素になると感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

統合報告書を読む限り、荏原実業では人的資本の価値向上を実現できると感じた。荏原実業は環境・インフラ分野を主力事業としており、技術的な専門知識だけでなく、顧客の課題を把握し解決策を提案する能力も求められる。そのため、業務を通じて専門性と課題解決能力の双方を高めることができると考えられる。

また、報告書では人材育成や資格取得支援への取り組みが紹介されており、社員の成長を支援する体制が整えられていることが分かった。さらに、比較的少数精鋭の企業であるため、一人ひとりに与えられる役割や責任も大きく、多様な経験を積む機会があると考えられる。

以上より、荏原実業では専門知識に加え、課題解決力や実務経験を身につけることができ、自身の人的資本の価値向上につながると感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

本報告書の良かった点として、まず長期ビジョンと中期経営計画の関係が分かりやすく整理されている点が挙げられる。企業が目指す将来像だけでなく、その実現に向けてどのような施策を実行するのが具体的に示されており、企業価値向上に向けた道筋を理解しやすかった。

また、財務情報だけでなく、サステナビリティや人的資本に関する非財務情報も充実しており、企業の中長期的な成長可能性を多面的に把握できる点も評価できる。特に環境分野における社会課題と事業戦略との関係が分かりやすく説明されていた。

一方で、改善余地としては、競合他社との比較情報がやや少ない点が挙げられる。業界内での立ち位置や強みをより客観的に理解するためには、シェアや技術力に関する比較情報があるとさらに分かりやすくなると感じた。また、人材育成施策についても制度の紹介だけでなく、実際の成果や社員の事例が掲載されていれば、より説得力のある内容になったと考える。

参考文献

・荏原実業株式会社『統合報告書 2025』

https://www.ejk.co.jp/wp-content/uploads/2025/10/Integrated_report2025.pdf?utm_source=chatgpt.com

・荏原実業株式会社『第 86 期 有価証券報告書（2024 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日）』

https://www.ejk.co.jp/ir/securities/?utm_source=chatgpt.com